

## 沢はヤブこぎに始まりヤブこぎに終る？

信濃川水系雑魚川外の沢

遡行日 08年8月2～3日

メンバー:菊地(L)、金井、奥平、新井(記録)

前夜、小田急海老名駅に集合。一路、志賀高原に向かう。大沼池P2:30着。ささやかな入山祝の後、就寝。6:00に起床し朝食を摂り7:00に出発。今回は外の沢を詰めて中岳～岩菅山を經由し一ノ瀬に下山予定。まず一ノ瀬に車で向かい菊地リーダーの自転車を草むらの中へデポ。そして外川小屋取水口近くの車道脇に駐車し、ザックを背負って8:30に出発。地図ではここから取水口まで山道があるはず。だったが、はじめは明確だった踏み跡がだんだんと不明瞭になり、ほとんどわからなくなったと思ったら、いつの間にかヤブこぎになっていた。お～の～っ！入溪からいきなりのヤブこぎ！今回の山行の目的の1つは新人の新井に山の厳しさを叩き込むという意味もあったので、これも計算なのか？とはいえ先頭に菊地リーダー、次に奥平代表。この2人がズンズンズン進んでいってしまうので後に続く金井さん、新井は置き去り状態で、結局竹ヤブと格闘して一番大変だったのは金井さんだった様に思う。新井はその後ろについて行っただけだった。30分余りのヤブこぎの後、右方向に沢があるはずとそっちにエスケープ。程なく小沢に出て一安心&小休止。奥平代表曰く、こんなのはヤブこぎとは呼べないと。さすがは会を束ねる会長だ。男のハードボイルドだ。後で判明したのだが、この道は今は使われておらず、きれいに整備された歩き易い道が近くにあったのである。う～ん、マンガム。帰りにその道を通るとあまりにいい道で、あのヤブこぎは何？と皆で笑ってしまった。

小沢を下り外の沢に出た。取水口に架かるしっかりとした吊橋を渡り、非常によく整備された東電の巡視路と思われる山道を歩いて11:00

頃沢に浸かり本格的に遡行開始。と思いきや、まもなく菊地リーダーがフライロッドを取り出したので、えっ、こんなに早くから釣りしていいの？と思ったが自分もルアー一竿を出す。金井さんはエサ釣りだ。4人中3人が釣りをするので、ここから遡行スピードがガクンと落ちてしまう。釣りをしない奥平代表はそこここで昼寝をしている。天気も良く気持ち良さそう。後で聞いて驚いたのだが、代表はいつもイワナばかり見ているのでイワナなんてどこにでもいて珍しくも何とも無い魚だと思っていたという。普通の人は見たもことも無いので幻の魚って呼ばれてるんですよと言うとすごく驚いていた。ときどき魚は見えるのだが、この沢は身を隠せる様な大きめの岩が少なく、魚はすぐに人間に気付いてピューッと逃げていってしまう。一度いいサイズの魚がヌワーッと出てきてハフッとルアーをくわえたが掛からなかった。ここ最近雨も少ないようで減水状態で魚もやる気になさそうだ。

釣師というのは釣れない理由はいくらでも思いつくもので、やれ水が少ないだの、澄み過ぎてるだの、魚がスレてるだの、土用隠れたの。もちろん釣れた時は全て自分の腕がいいからとなる。単純明快。この沢は小規模ながら所々にナメが出てきて水もとても綺麗なのだが、ヌルが少々滑り易く、転んでルアー一竿を折ってしまった。そこで予備のエサ竿を出し、金井さん、すいません、ブドウ虫もらってもいいですか？いいわよ、と差し出したのを見ると、おーまいグッドネス！高級ブドウ虫である。金井さんがセレブだとはチラッと耳にしていたが、まさかブドウ虫まで！大きくて色艶もいい。これを使い小型ながら最初の一匹を釣り上げた。あざーっす！そうこうしてるうちに15:00になりセハチ沢出合い付近で幕営することに。ヤバい。予定の半分も遡行出来てないのでは？すみません、釣りに没頭し過ぎました。新人は素行も悪い上、遡行も悪い(顔も悪い)。しかし、唯一の釣果を上げている新人にリーダーは、

焚き火の準備はしておくからオカズを釣って来いと命令。頑張ったけどチビ1匹しか追加出来ずに戻るとスゴイ量の薪が出来ていた。えっ？誰かチェーンソー持って来たの？と聞くと手ノコで切ったと言う。そう、菊地リーダーのゴム郎が炸裂だ！男の中の男、マンオブザマーソン！夕食は金井さんによる豪華5点盛り。自分は生まれ変わったら豚キムチになりたいと思うくらい大好きな豚キムチに、サラダ、ミズの根のわさび和えもおいしかったなあ。イワナの塩焼きも最高。ごちそうさまでした。次の日。7:00に朝食を摂り9:00に出発。結局、沢を詰めるには時間が無いので下ることに。歩き始めて30分余りで入渓点に戻って来て一同ビックリ&大笑い。こんなにちょっとしか遡ってなかったの？その後、東電巡視路を戻り、沢で出会ったパーティから聞いた新しい道を行くと吊橋から30分ほどで車を置いた道路に出たのだった。今回の山行で学んだのは、道は出来たりなくなったりと変わる事、釣りはほどほどにすること、ノコギリはちゃんとした物を買うこと、奥平代表は金井さんといつも掛け合い漫才をしていることの4つだった。